

群 教 セ	G03 - 02
	平25.251集
	小・道徳

# 学校生活をよりよくしようとする心情を 育てる道徳指導の工夫

—グループ活動における付せんを活用した意見交流を通して—

特別研修員 荒平 幹雄

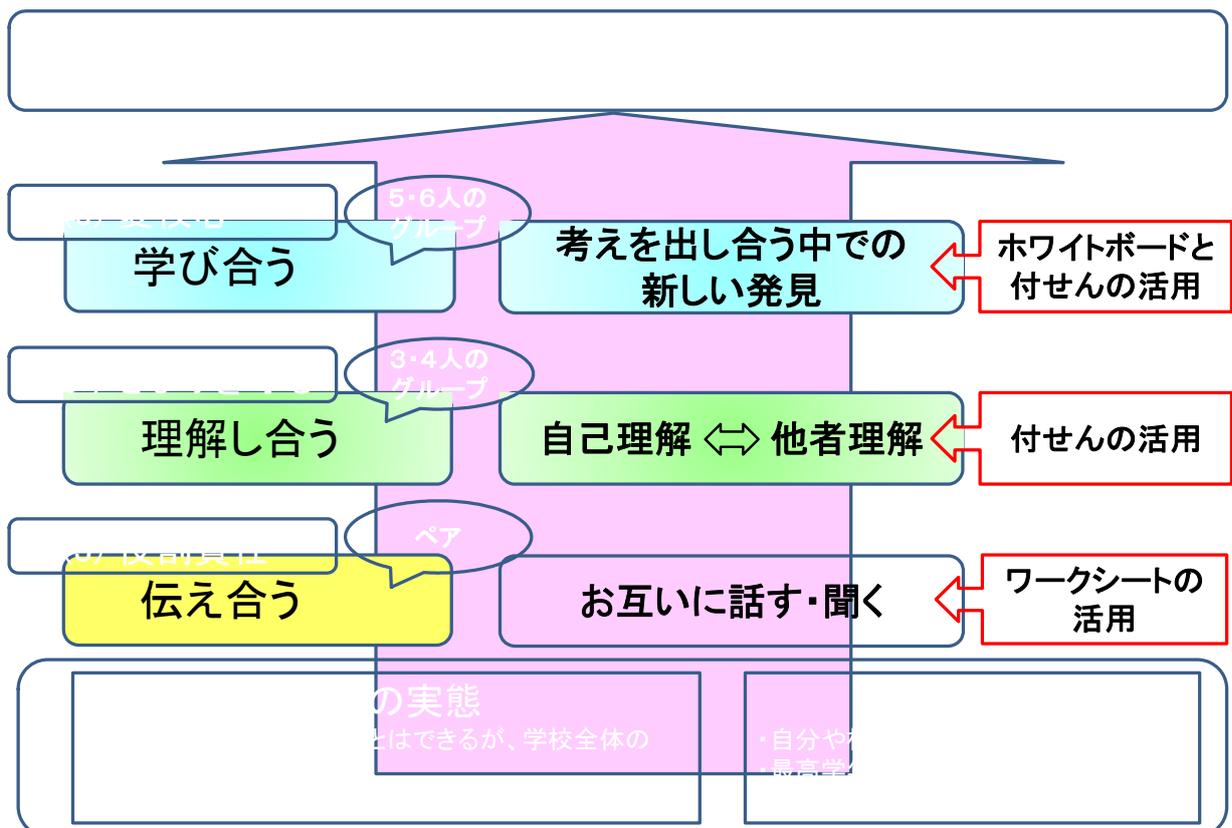
## I 主題設定の理由

小学校高学年の児童は、学校行事や学級の係活動などにおいて、自分に与えられた役割の中で進んで活動することが求められる。「道徳教育推進状況調査」からは、郷土愛や責任感に課題が見られた。「はばたく群馬の指導プラン」の「大切に作る心」の中で、小学校高学年では「学校生活をよりよくするために、諸活動に取り組むことができる」ことを重視している。道徳の授業において、主人公の気持ちを考えたり、これまでの自分を振り返ったりする場面で、話し合い活動が活発に行われることで、自己や他者への気付きがあり、態度化・行動化につながると考える。

そこで、道徳の授業において、少人数グループで付せんを活用した意見交流を行うことで、自己や他者への気付きが生まれ、お互いに学校生活をよりよくしていこうとする心情を育てることができると考え、本主題を設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



### 2 授業改善に向けた手だて

自己や他者の理解を深めるために「規則尊重・公德心」（第6学年・2学期）において、少人数グループで意見交流の時間を設定し、以下の点に留意して実践を試みた。

#### — 実践1における研究上の手だて —

○少人数グループで意見交流する際、聞く側の視点を提示する。

- ・自分の考えと似ているところや異なるところを見つけて、付せんに記入する。その際、自分の考えと似ている場合は、桃色の付せんにその友達の名前を記入する。自分の考えと異なる場合は、水色の付せんに異なる意見を記入する。

本授業は、図書館における本の被害に対して、図書館員である主人公が対応に悩み、葛藤する中から、主人公の気持ちについて考えることで、公德心をもって法やきまりを守ろうとする心情を養うことをねらいとした授業である。主人公の気持ちを中心発問から考える場面において、少人数グループになり、お互いの考えを比べながら付せんに書く活動を取り入れて意見交流を行った。児童は自分の考えを主体的に類別することができたが、全体交流が活性化しなかった。

そこで、「愛校心」（第6学年・3学期）において、少人数グループで意見交流を行う際、次のように手だてを改善した。

#### — 実践2における研究上の手だて —

○少人数グループで意見交流する際、お互いの考えを伝え合うための視点を提示する。

- ・自分の考えを付せんに書き、1枚のホワイトボードに貼り付けてお互いに考えを伝え合う。
- ・ホワイトボードに他の児童の考えと「似ている」「異なる」などの視点を与え、付せんに貼る場所を考えて、説明しながら貼る。類別して見出しを付けていくことで、多様な考えがあることを知る。

本授業は、主人公の6年生全員が、みんなで決めた奉仕作業に取り組み、作業を終えた後の主人公の気持ち等について考える中から、先生や学校の人々に敬愛し、みんなで協力し合い、よりよい校風をつくろうとする心情を養うことをねらいとした授業である。実践1の考察を踏まえ、中心発問に対する自分の考えを友達に伝えられるよう、付せんに書いた自分の考えを言葉に出しながらホワイトボードに貼る活動を取り入れた。グループ内の友達が自分の考えと比較することができ、児童は自分なりに自分の考えを言葉で伝え、活発に活動する様子が見られた。授業後の感想では、「残りの小学校生活を先生方や学校に恩返しする気持ちをもって過ごしたい」と感想をもつ児童がほとんどだった。

### Ⅲ 研究のまとめ

#### 1 成果

- 少人数グループで意見交流を行い、自分の考えや友達の考えを比較・検討したことで、児童が道徳的価値を自覚し、新しい考えに気付くことができた。
- 他者への気付きをねらった活動を通して、自分の考えを再確認し、自分のことだけでなく下級生や周囲に目を向けたり、学校生活をよりよくしていこうと考えたりする児童が増えた。

#### 2 課題

- 児童が自分の考えを付せんに書き、意見交流を行う中で、付せんに書いたことを比較し、同じ考えか違う考えかを見極められるよう、繰り返し行うことも必要であると考えられる。
- 付せんを活用した意見交流を充実させるため、資料把握の効率化や発問の工夫を行う必要がある。

#### 3 提言

- 「役割責任」「規則尊重・公德心」「愛校心」などの価値項目においては、道徳の時間だけでなく、他教科や特別活動、学校行事との関連を図ることで、一層充実した活動につなげることができる。

#### IV 実践及び改善の実際

##### 実践 1

1 主題名 「きまりを守る」 4－(1) 規則尊重・公德心 (第6学年・2学期)

資料名 「図書館員のなやみ」(文溪堂)

##### 2 本主題及び本時について

本主題は、「公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす」をねらいとするものである。本時は「公德心をもって法やきまりを守ろうとする心情を養うこと」がねらいとなる。本資料は、図書館員をしている主人公が抱える苦悩を表したものである。貸し出された本や館内の雑誌に対する被害が増える中で、人気のある雑誌は、カウンター内に保管し、手続きをしてから渡すことにしたところ、被害の件数は減った。しかし、主人公は利用者にもっと気軽に読んでもらいたいと思い、雑誌を元の棚に戻すことを会議で提案する。しかし、その後も一人の女性が雑誌にカッターを当てているところを見つけ、注意をすると怒って席を立っていくことがあった。図書館の本を守り、利用者が図書館を利用しやすくするためにどのようにするべきか、主人公は困っている。中心発問では、「主人公がどのようにしたらよいか困っている時の気持ち」について児童に考えさせることで、本を守る立場と利用しやすくする立場での主人公の心の葛藤を感じ取り、公德心をもって行動しようとする気持ちを高めていく。児童がお互いの考えを伝え合い、深めていけるよう、グループによる意見交流を行い、自分の考えとの共通点や相違点などをワークシートや付せんに記入しながら話し合いを進めることとした。

##### 3 授業の実際

中心発問についてグループで意見交流を行う際、次のように示した。

相手の考えを聞くとき、自分の考えと似ている場合は桃色の付せんにその友達の名前を記入し、違っている考えと思ったら水色の付せんに友達の考えを記入する。

児童は、3、4人の少人数グループにおいて、ワークシートに貼られた付せんに1枚ずつ取り、主人公が困っている時の気持ちについて、自分が発表したり、一人一人の友達の発表を聞いたりした後、自分の考えと比較し、2種類の付せんに類別して記入をした。

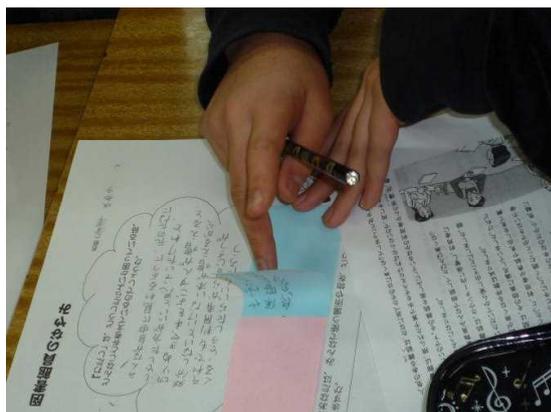


図1 自分の考えを付せんに記入する児童



図2 付せんを活用して意見交流する児童

付せんを活用した意見交流の様子（      は視点に沿って考えたり、発言したりする児童の姿）

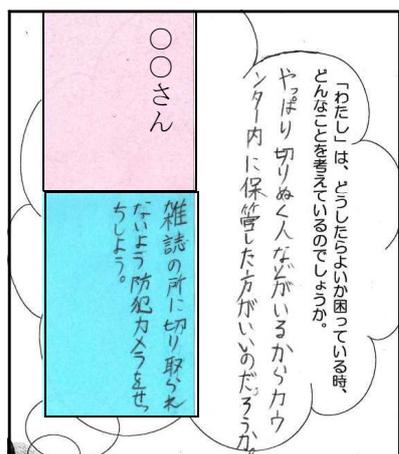
T：桃色の付せんには自分と同じ考えの友達の名前、自分と違う場合は水色の付せんに友達の考えを書いてワークシートに貼りましょう。

S1：〇〇君の考えはぼくの考えに似ているから、桃色の付せんに〇〇君の名前を書こう。

T：どんなところが似ていたかな。

S2：「人気のある雑誌はこれまでのようにカウンターの中にしまっていて、手続きしてから読むようにした方が持っていかれることがなくていいけど、みんなが気軽に雑誌を手にとって読めなくなるのは困るからどうしよう」と、主人公が困ってしまうところが似ています。

S3：〇〇君は、「防犯カメラの設置や注意するようにしたらいいかかも」と、他にも方法がないか考え込んでいるということだけど、ぼくの考えは、「決められなくて、どうしたらよいか困っている」だから、少し違うと思う。だから水色の付せんに書いて、ワークシートに貼るようしよう。



以上のように、グループで意見交流をする際、「自分の考えと似ているところや異なるところを見つけて付せんに記入する」という視点を聞く側に提示することで、相手の考えを注意深く聞きながら、自分の考えと比較する児童の姿が多く見られた。

また、全体での発表の際には、次のような児童の姿が見られた。

#### 全体での意見交流の様子

T：それぞれのグループでは、どのような考えが出ましたか。

S1：「本当は気軽に雑誌を読んでほしいけど、雑誌を元の棚に戻すと、また持っていったり、切り抜いたりする人がいるから困っている」という考えが多かったです。

T：他のグループはどうですか。

S2：「防犯カメラを設置するなど、他にもいい考えはないか考え込んでいる」という考えが出ました。

T：他のグループの人は、それを聞いてどう思いますか。

S3：自分たちのグループではそのような考えは出なかったので、少し違って、よい考えだと思いました。

このように、グループでの意見交流の後、全体でどのような考えが出たかを発表し合う中では、さらに別のグループの考えを聞くことで、多様な考えを知り、自分の考えと比較した結果を表現することができる児童が多く見られた。

#### 4 考察

- 自己への振り返りの場面では、「図書館などの公共物や公共施設では、他の人のことを考えて行動することが大事である」といった、周囲への気遣いやみんなのことを考えて行動することの大切さに気付く児童が多く見られ、学校だけでなくよりよい生活をしようとする心情につながった。
- 付せんを活用して、聞く側に視点を提示したことで、自分の考えと比較しながら相手の考えを聞くことができた。
- 少人数グループでの意見交流を行うことで、全体の場においても自信をもって自分の考えを言える児童の姿が見られるようになった。
- 意見見交流の際、児童は自分の考えを主体的に類別することができたが、教師が授業の終末において付せんに書いてある児童の言葉を有効に活用しきれなかったため、少人数グループで意見交流を行う際に手だてを追加する必要がある。

## 実践 2

- 1 主題名 「よりよい校風」 4－(6) 愛校心 (第6学年・3学期)  
資料名 「卒業の日を前にして」(日本標準)

### 2 本主題及び本時について

本主題は、「先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる」をねらいとするものである。本時は「先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合い、よりよい校風をつくろうとする心情を養うこと」がねらいとなる。本資料は、小学校の卒業式を目前に控えた主人公の心情を表したものである。卒業式まであと50日の頃、学級で話し合って決めた奉仕作業を学級全員で行うことになった。作業中、大変ではあるが、6年間の様々な思い出を振り返りながら、達成感や下級生への思い、お世話になった校舎や先生への感謝の気持ちなどを主人公が感じ、作業し終わった後には「晴れ晴れとした気持ち」になった。中心発問では、主人公が「晴れ晴れとした気持ち」になれた理由について考える。児童がお互いの考えを深めていけるよう、少人数グループでの意見交流を行う。その際、付せんに自分の考えを書き、ホワイトボードに同じような意見を近くに貼っていくよう伝え、異なる意見についても、説明しながら別のところに貼るよう指示した。貼り出された付せんについては類別化を行い、ホワイトボードに考えをまとめて見出しを付け、教室の黒板に掲示することで学級全体でもお互いの考えを比較できるようにした。

### 3 授業の実際

中心発問についてグループで意見交流を行う際、次のように示した。

自分の考えを書いた付せんにホワイトボードに貼る際、考えた理由を友達に伝えながら貼るようにする。次の人は、考えた理由を声に出しながら同じような考えの場合は近くに貼り、違う考えの場合は説明しながら別のところに貼るようにする。

児童は、ワークシートに貼られた付せんに自分の考えを書き、5、6人の少人数グループにおいて一人ずつ自分の考えを伝えながらホワイトボードに貼っていった。



図3 付せんに自分の考えを書き、ホワイトボードに貼る児童

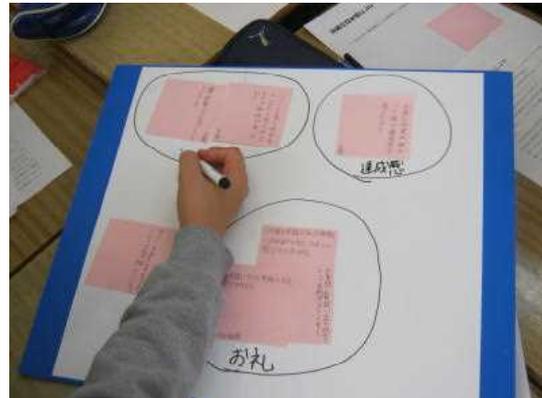


図4 類別した付せんに見出しを付ける児童

付せんを活用した意見交流の様子（      は視点に沿って考えたり、発言したりする児童の姿）

T：自分の考えを書いた付せんに説明しながらホワイトボードに貼りましょう。同じような考えの人は近くに、違う考えの人は別のところに貼るようにしましょう。

S1：「低学年の人が、きれいになった廊下のラインを見てどう思うかなと思ったから」だと思う。

S2：ぼくも、「低学年の人たちがどんな反応をするか楽しみだから」だと思う。だから、〇〇君の付せんの近くに貼ろう。

S3：ぼくは、「ライン引きは大変だったけど、お世話になった校舎にお礼ができたから」だと思いま

した。だから、〇〇君たちとは少し離れたところに貼ろう。

S4: 〇〇君の「6年間お世話になった校舎に恩返しができたから」は、「お礼」と似てるから、この付せんの近くに貼ったほうがいいと思う。

このように、ホワイトボードに付せんを貼る活動では、全員の児童が自分の考えを伝えながら貼ることができた。全員で付せんを見直すことで、同じような考えや違う考えなどを集めて貼ることができた。貼られた付せんを類別し見出しを付ける場面では、付せんに書かれた内容をグループ全員で確認しながら、協力して考えをまとめることができた。

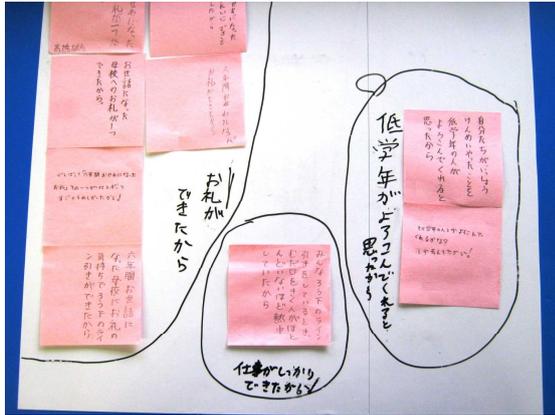


図5 付せんに見出しを付けたホワイトボード



図6 全体での振り返りの様子

#### 全体での振り返りの様子

T: 他のグループの考えはどうだろうか。黒板に貼ってある各グループのホワイトボードをよく見てみよう。自分たちのグループと比べてどんな意見が出ているかな。

S1: 「低学年の人たちが喜んでくれると思うから」「校舎や先生へのお礼ができたから」という考えがたくさん出ていると思います。

S2: 意見は少ないけど、「作業をやり終えた達成感」もいくつか出ているので、それもまとめられると思います。

T: そうですね。みんながまとめてくれた意見から考えると、全体で3つくらい考えられますね。きっとこのように、いくつかの理由からわたしは「晴れ晴れとした気持ちになった」と思いますね。

出された意見を全体でまとめる場面では、各グループで付けた見出しを中心に上げながら考えたため、多くの児童から発言があった。

#### 4 考察

○意見交流を重ねることで友達のことを広く知ることができ、行動化・態度化につながり、「教室移動は静かに行う」「縦割り活動で下級生に優しく運動を教える」など、周囲への配慮ができる児童が多く見られるようになった。このことから、本実践は学校生活をよりよくしていこうという心情を育てる上で有効であると考えられる。

○付せんを活用した意見交流が以前と比べて活発に行われるようになり、友達のことをよく分かったとの感想があり、他者への気付きが生まれた。